

1 研究主題

どの子も自分の思いや考えを表現することができる「書くこと」における国語科指導法の研究  
～全体と個に対応する国語科教育をめざして～

2 研究の仮説

「書く目的」「書くための準備」「書き出し」のそれぞれの段階において、大里東小学校の実態に即した授業を行えば、児童は自分の思いや考えを表現することができるであろう。

3 児童が書くために必要な3つの手立て（本年度は視覚化と焦点化を中心に研究）

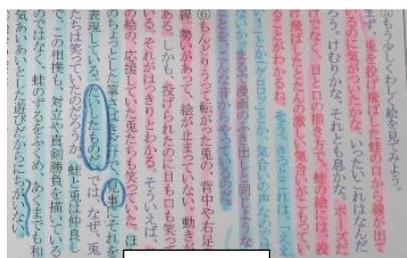
(1) 「書く目的」を明確にする

「書くこと」において、児童が「誰」に「何」を伝えるのかを明確にすることは、児童が主体的に書く活動に取り組む上で重要である。単元全体を通して誰に何を伝えることをこの単元で学ぶのか、つまり何のために学習しているのかを明確にするように単元計画や学習展開を工夫していく。(例：伝える相手の工夫、伝える場の設定など)

(2) 「書くための準備」をする

「書くこと」の準備において、必要に応じてメモをとったり、調べたりすること（取材）とそれを整理することは、児童が自分の思いや考えを表現する上で重要である。何を言いながら（誰に聞きながら）調べて、それを、どのように整理していくのかについて研究していく。(例：取材…インタビュー相手の精選、学級文庫の設置、インターネットの調べ方の工夫など 整理…色分けした付箋、チャート図、イメージマップなど)  
また、児童が例文などから、「はじめ」「中」「終わり」にどのようなことが書かれているか分析するなど、文の構成を考えることも大切である。目的に応じた文の書き方について、本文を書く際に、どの子でも分かりやすいように文の構造を視覚化したり、活動を仕組んだりするなどして、学びの足跡を残していく。

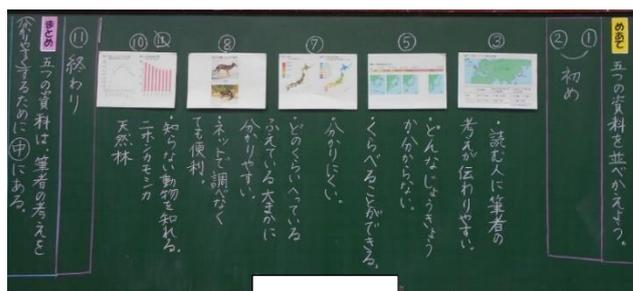
【これまでの実践より】



資料1



資料2



資料3

資料1…事実と筆者の考えを色分けし、文の構造を考える。

資料2…接続語に着目させるために、文（段落）の並び替えをする。

資料3…文章全体の構造が分かるようにした板書。

### (3) 「書き出し」の場面を工夫する

いざ書く学習になると、なかなか書けずに戸惑う児童が、本校では今までの研究より特に多いことが分かっている。そこで学習をスモールステップ化し、文の書き出しまでは、学び合いの中で考え、「書き出し」をどうすればよいか見いだすことが大切だと考えた。そこで教師の発問より、一人一人の考えを広げ、どの子も書き始めることができる学習展開を工夫する。また、書き始め後（本文）も書くことができるように、準備したものをどのように活用するのも併せて考える。（例：口頭作文、文型の提示、ペア学習、グループ学習などの話し合い、取材したものの活用など）

## 4 各学年の目標（本校）

	1年次（主に目的）	2年次（主に内容）	3年次（主に構成）
全体	目的をもって、何かしらの文を書くことができる。	事実や理由、考えなど内容を分けて書くことができる。	文のまとまりや、構成を考えて書くことができる。
低学年	経験や、想像から、書くことを見つけ、何かしら文を書くことができる。	自分の思いや考えを文に書くことができる。	文と文の続き方に注意して、文のまとまりを意識して書くことができる。
中学年	相手や目的を意識して、書くことを選び、何かしら文を書くことができる。	自分の考えと、その理由を分けて書くことができる。	書く内容の中心を明確にし、段落に分けて書くことができる。
高学年	目的や意図に応じて、書くことを選び、何かしら文を書くことができる。	事実と意見、感想を分けて書くことができる。	筋道の通った文章になるように全体の構成を考えて書くことができる。

※ 学習指導要領解説を参照

## 5 「書くこと」の学習活動について（本時）

本時では「書くこと」の学習活動をすることで、各学年の比較ができるようにする。

### 【本時学習活動例】

- ①前時までの学習の振り返り
- ②本時のめあてを見いだす（誰に何を伝えるのかを確認）
- ③「書き始め」を考える
- ④「書き始め」を書く
- ⑤本文の内容について、調べたことなど（取材したこと）や例文の文の構成をもとにどう書けばよいか考える
- ⑥本文を書く
- ⑦発表・まとめ・振り返り

※ 本時は文の内容を書く活動にしぼり、清書などは次時に行うものとする。

※ 本時の書く文章は原則ノートに書く。（1年生や特別な手立てがあり、ノートに書くことが不可能な場合は除く。）

## 6 本研究の検討方法について（協議会）

本時に書いた文と今までのノート（取材したものなど）を検討することで、手立てが有効であったかどうかについてなど、学年の目標が達成できたかどうかについて検討していく。

## 学習指導要領 B 書くこと

### ○題材の設定、情報の収集、内容の検討

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

### ○構成の検討

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。	イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。

### ○考えの形成、記述

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。